

# 防災用AVシステム

森田健司\*  
岩辻一郎\*\*

## 要旨

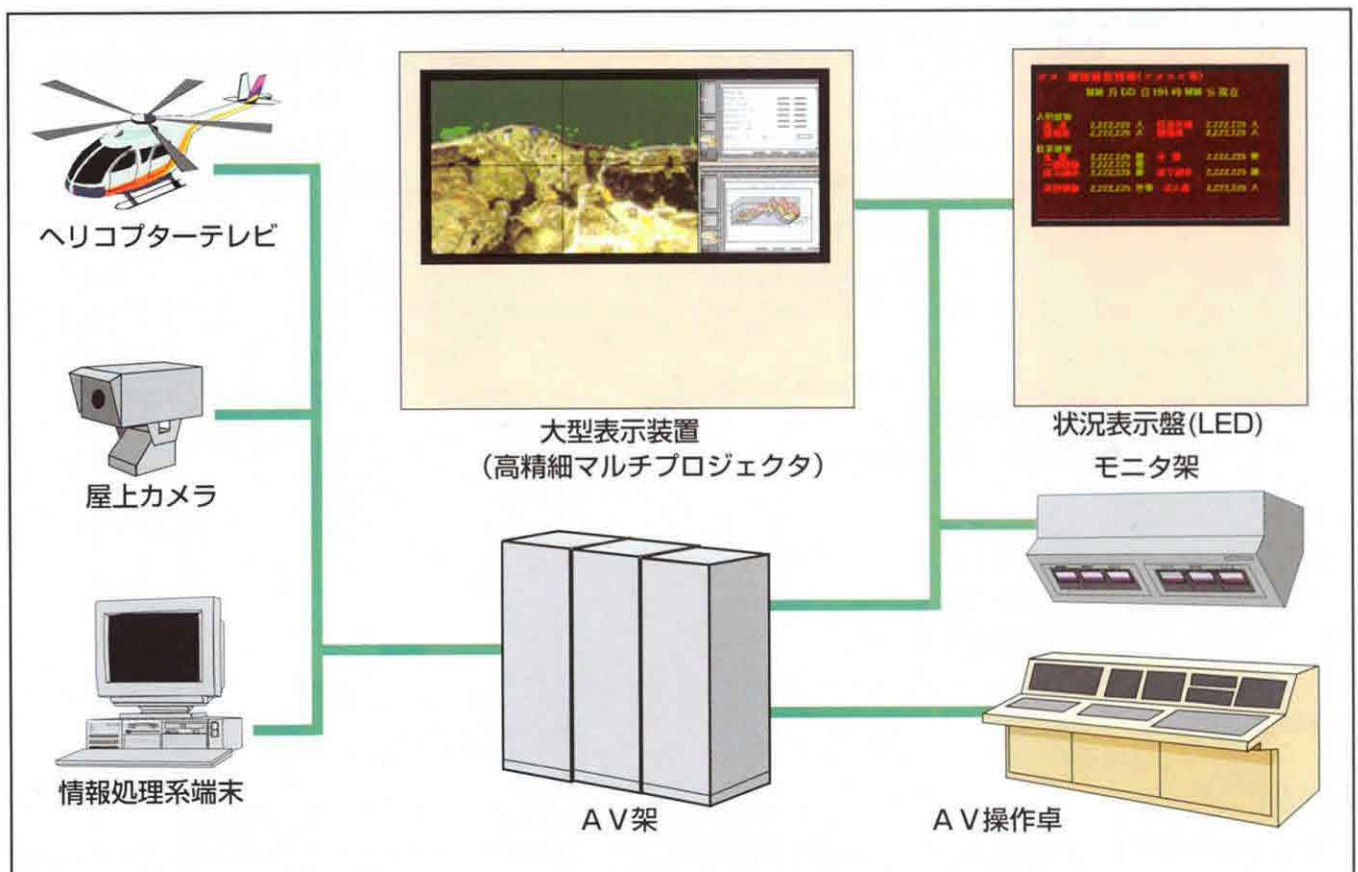
各自治体では、近年頻発する災害による被害を最小限にとどめるために、各種の防災用システムの整備や計画が進められている。災害状況の把握に映像や音声等を用いることは、より迅速かつ正確な災害対策活動の立案を行う有効な手段であり、防災用AVシステムの整備を実施する自治体も増えている。

鹿児島県では、1997年2月に災害対策本部室設備として、防災用AVシステムを導入した。鹿児島県の防災用AVシステムは、災害対策活動に関連する他のシステムの端末画面等の表示も必要なことから、通常のビデオ信号から高解像度な画像信号まで表示を可能とする高精細プロジェクタを採用した。また、この高精細プロジェクタには、スペースの有効活用を図りながら、提供する情報量を自由に替えられる50インチ6面マルチ構成とした。

オンラインで接続可能な他のシステムの情報については、状況表示盤を用いて文字情報としての提供も行う。

システムの操作はAVワークステーションによって行う。AVワークステーションはGUIを備え、優れた操作性を実現しているだけでなく、静止画の生成と管理、屋上カメラの遠隔監視及び制御の機能を統合している。特に屋上カメラの遠隔監視及び制御については、地図システムを用いてのカメラ操作機能を持ち、目的地の撮影を容易にした。

より迅速な災害対策活動の実現を目指して、デジタルカメラで撮影した災害現地の状況を、携帯電話を用いて災害対策本部へ静止画の送信を行う。また、TV会議システムを用いての出先機関等との連絡調整や準動画伝送等の機能拡張も可能な構成としている。



## システム概念図

効率の良い災害対策活動を実施するために、情報収集活動の一環として、災害対策活動に関連する各種システムと防災用AVシステムとを接続する。収集した情報は、大型表示装置や状況表示盤を用いて、情報の特性に応じた形態で災害対策本部員に提供する。